
赤に染める

稲垣優

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

赤に染める

【コード】

N9361G

【作者名】

稲垣優

【あらすじ】

教室で、彼は私に向かって言った。「俺は、お前を許さない」

教室は赤く染まっていた。
夕陽が窓の外の世界を染め上げる。

「なあ……如何してだよ」

カレは、私に怖い顔をして問い詰める。

ああ、怖い怖い。

そんなに怒らないでよ。

「如何して？変な事言うのね、ツナ。私が、何をしたの？」

「……とぼけるなよ。京子ちゃんの…件だ」

ああ、なんだそんなこと？

私は如何でもいい事を言うように言った。
聞いて損した。

そんな如何でもいいことを聞くなんて、なんだか時間が勿体無い。

「そんな事ってないだろ！」

「そんな事、だよ。私が何もしなくても、きっと彼女はいずれこう

なる運命だった」

「何で、そう言いきれるんだよ!」

「彼女は、可愛すぎた。だから、周りの馬鹿な女から反感を買ったのよ。私はそれにつけこんだだけ。ちよつと彼女らを刺激しただけなのよ?」

馬鹿な女は何処にでも居るものだ。

ブスな女の、モテる女の子への嫉妬ほど、醜いものはない。

だから彼女らは、山本や獄寺と一緒に居る機会も多く、そして可愛い笹川京子へ嫉妬心を抱いていた。

私は、そこを少し利用しただけ。

一言、笹川京子は彼らをおとそうと狙っている、と一度だけ呟いてみただけなんだ。

そうしたら私も想像していかないくらいに、醜い女たちは顔を真っ赤に染めて怒りだした。

そうすれば、私が何もしくとも、雪だるまみたいにコトは大きくなつた。

「ふざけるな!京子ちゃんは、陽波ひなみの所為で苦しんでるんだぞ?!」

「私の、所為?ぜーんぶ、私の所為?」

「……っ!……全部ってわけじゃない。けど、陽波にも責任はある」

「そうだね」

私は、其れきり黙った。

けれど彼は黙る事はなく、すぐに私に訊き返してきた。

夕陽は赤々と空を染め上げ、教室の仲間でも赤い光で染め上げようとしていた。

「なあ、陽波。如何して、あんなことをしたんだ？」

「……………ツナ、怒ってる？」

怒ってなんかない。

彼はそう、穏やかな口調で言った。

それはきつと真実なのかもしれない。

優しい彼だもの。きつと、怒ってなんかない。

けれど私にとって、彼が怒っていてもいなくても、それは少し関係のないことだった。

「私は、ダメだね。ツナを染める事しか出来ない」

「染めるって……………」

「私は、貴方を……………ツナを、赤く染める事しか出来ない」

そう言って、空を見上げた。

まだ、空は赤い。
真っ赤、真っ赤、赤。

「血の色に染めることしか、出来ない。どんなに……ツナのことを想っていても、それは絶対にツナに届かないんだね」

そんなこと、知っていたのだ。

ずっと、前から知っていた。

知らないわけがない。知っていたから、私はそんな馬鹿なまねをしたのだから。

「ねえ、ダイスキだよ、ツナ。貴方を手に入れるためなら、なんだって出来るよ」

そっだ、なんだって、出来る。

だって、狂った歯車は、もう誰にも直す事は出来ないでしょう？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9361g/>

赤に染める

2010年10月9日00時48分発行